

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第8回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

## 「お弁当」

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「林業の魅力はメシがうまいことだ」と語る方もいらつしやるようですが、山で食べる弁当は気持ちのいいこともあれば、風雨に晒されて辛いこともあるかと思われま



昭和十一年 林業訓練の若者達の昼食風景  
(現在の飛騨森林管理署管内)

昭和三十年代ぐらいまでのお弁当は、お米がとにかく多かつたようで、「柚すまのいっし一升飯」という言葉があつたとされます。また、古い時代には十時と二時頃の二回の昼食をとる習慣もありました。肉や魚といったタンパク質が手しやすくなるにつれて、お米の量は少なくなつていったようです。



大正時代末頃の炊事手  
(現在の木曾森林管理署管内)

かつては炊事手(かしき)と呼ばれる仕事があり、手伝いの小僧さんと共に食事や弁当を担当していました。漬物、塩で煮しめ

た豆などのおかずが多く、木で作ったメンパと呼ばれる弁当箱に詰められました。



冬のテント内での昼食  
(旧名古屋営林局管内、昭和30年代頃)

時代と共にお弁当の風景も変化し、山の寝泊まりや炊事手による煮炊きも無くなつていきました。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。

